

# おだわらライブラリー通信

小田原の文化資源を発掘する◆小田原市民会館のストーリーを紡ぐ 第1号

## 文化資源を発掘するワークショップ、始まる

平成二十六年十月、小田原市民会館会議室にて「文化資源発掘ワークショップ」小田原市民会館のストーリーを紡ぐ」がスタートしました。長らく小田原市民や近隣の人々に愛されてきた小田原市民会館ですが、開館から五十年を越えて老朽化が激しく、それに伴って新しく「芸術文化創造センター」の整備が進められています。完成の暁には、小田原や近隣の芸術文化の創造拠点として、まちの賑わいに貢献できることが求められています。

今回の「文化資源発掘ワークショップ」では、小田原の文化の殿堂であった「小田原市民会館」に関わった人々にインタビューを行い、そこでどのようなドラマが繰り広げられてきたのか、公募の参加者とともに、探っていく事業です。それぞれの体験から、貴重なお話しを通して「小田原の文化とは何か」を見つめ直し、その思いを、次の時代に向けて受け継ぎ、芸術文化創造センターへ

繋いでいくことを目的としています。



ワークショップの講師として、劇作家の篠原久美子さんをお招きしました。

篠原さんは、東日本大震災を題材にした作品で、実際に何度も被災地に赴き、人々の話を丁寧に聞くことで、浮かび上がる人間のドラマを台本として制作しました。その技術を参加者の方々が学んだ上で、お招きしたゲストの方にインタビューを行いました。またアシスタントとして、劇作家の坂本鈴さん、有吉朝子さんもご参加いただきました。

ワークショップは全八回開催され、うち五回でインタビューや資料探し、時にはフィールドワークなどを行いました。歴史が深く、人材も厚い小田原の文化。たくさん候補の中で、事業の主旨にご賛同いただいた七名の方にインタビューをさせていただくことになりました。

### ■第1回 『市民会館の結婚式』

坂井輝夫さん(陶芸家)

渡辺弥一さん(市民会館食堂 店長)

### ■第2回 『市民会館の音楽事業』

井上忠彦さん(井上楽器社長)

露木一郎さん(シャム猫カンパニー社長)

### ■第3回 『五十嵐写真館の物語』

五十嵐史郎さん(五十嵐写真館三代目支配人)

### ■第4回 『劇団こゆるぎ座の歩み』

関口秀夫さん(劇団こゆるぎ座座長)

### ■第6回 『小田原花柳界と長唄』

杵屋六響さん(長唄 唄方、響泉会主宰)



一時間から一時間半程度、貴重なお話しを伺いました。このライブラリー通信では、皆様に行ったインタビューを「小田原市民会館のストーリーを紡ぐ」という観点から編集をさせていただいております。

各号には、ワークショップ参加者「文化資源発掘隊ライブラリー」の皆さんが執筆した記事・コラムも掲載しています。文化資源発掘隊ライブラリーとして、まため記事に関わってくださいました。

深野彰さん、神馬純江さん、高塩英芳さん、鈴木誠一さん、田代勝利さん、水間靖子さんの6名は、小田原市の在任歴や、文化的な経験、得意なジャンルも違いながら、インタビューでは「愛と尊敬」を持って傾聴していただき、このライブラリー通信の記事を執筆してくださいました。

限られた回数ワークショップの中で、調査しても不明な点も残りましたが、興味深い「謎」として現在も調査中であり、この通信を読んだ方からの情報提供も、お待ちしております。

ちなみに『ライブラリー』とは、「ライブラリー」の脱字ではなく、「LIBRARY」そして、小田原の特産であった「鯛(ぶり)」を掛け合わせた造語です。



■小田原市民会館	(本館完成時の施設パンフレットより)
大ホール竣工	昭和37年7月28日 開館
本館 竣工	昭和40年5月 8日 開館
面積(本館)	敷地面積 3408.81平方メートル
	延べ面積 8714.15平方メートル
設計	創和建築事務所(大ホール)
	東建築設計事務所(本館)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上6階

# 市民会館で行う、華燭の典

## 「結婚式場」としての市民会館

### ■坂井輝夫さん(陶芸家)

昭和四十年八月、小田原市民会館の本館が完成しました。大ホールの完成から遅れること二年、小ホールや展示室、会議室などの施設のほか、目玉のひとつとして「結婚式場」が併設されていました。以後、小田原市民だけでなく近隣の方々も使える式場として使用され、平成十年に利用者の減少によってその役目を終えるまで、愛されつづけてきました。インタビュの第一回目では、今も市民会館本館二階で営業を続ける「市民会館食堂」店長の渡辺弥一さん(箱根町在住)、かつてこの会館で結婚式を挙げられた坂井輝夫さん(南足柄市在住)のお二人に、お話しをお聞きしました。

### 市民会館の本館が完成

山形 早速 4組の結婚式



本館完成を伝える広報おだわら(昭和40年7月号)

6月の納税  
今月納税・市民税 第1期分  
納期限 6月30日  
納付先 小田原市役所 納税課  
納付書は、市役所納税課で発行します。

国道一号线と通行止  
かけ替え

補充選挙人名簿  
申し込みは6月9日までに

結婚式をしたのは、昭和五〇年代、三〇年前くらいです。当時、小田原の近辺で結婚式を挙げる場合は、二宮神社か、飯泉橋のそばにある結婚式場か、市民会館の三つから選びました。この市民会館が、一番費用としては安かったです。市外の人であっても、市民会館の結婚式場は使用できたようです。式場は三つ位ありました。四〇人くらい、私たちが式を挙げた場所が五〇人、七〇人くらいと、人数に合わせて選べました。私たちは神前形式でやりましたが、実際に神主さんがいらして、取り仕切ってくれました。ただし、どこの神社の方だったのかは覚えていません。細かい部分はあまり覚えていませんが、申込みに来たときに、結婚式と披露宴の形を示してもらいました。打合せの時には、写真ではなくて実物を見せてもらった気がします。それぞれ松竹梅があつて、予算にあわせて料理、引き物、ケーキなどが選ばれました。引き出物を含め、打合せをして注文したものをすべてやってくれるので、体ひとつで来れば良かったです。まず和装で、お色直しがあつてスーツになりました。会館内に衣裳部屋もあつて、貸衣裳が借りられました。市民会館に来るのはとても久しぶりなので、今ではどこの部屋だったか思い出せませんが、ずいぶん変わってしまっていますね。

### ■渡辺弥一さん(市民会館食堂 店長)

私は二八歳の頃から、だるま料理店の小田原市民会館食堂に勤めていました。当時はまだ六階に市の事務所が入っていて、お昼ご飯を六階に運んだこともありました。そのうちに役所が事務所を引き払って、そのあとで六階でも披露宴を行うようになりました。四階に結婚式場がありました。式場のほかに新郎新婦の控え室や写真を撮るところもありました。いまは市民活動サポートセンターになっていますね。

「寿会」というものがあつて、実際に衣裳や料理、飾り物、引き出物まですべて実物を見せて、選んで頂きました。結婚式は別の会場で挙げて、披露宴だけを市民会館でやることもありました。市民会館を使う際、料理屋はどこを選んでもよかったです。だいたい、だるままで受けさせていたことが多かったですね。当時は結婚式のために勤めている人も、たくさんいました。料理は和食です。お刺身、吸い物、縁起物として伊勢海老を使ったり、「口取り」という、焼いた鯛や栗きんとんなんかが入った、お持ち帰りの料理も作りました。材料はすべて小田原の地のものを使っていました。

多いときで、一日に七組の式がありました。接待役の女性が十名、調理場には四名と、洗い場に五名。だるま料理店の本店が近かったので、料理の仕込みは本店でやって、市民会館の厨房では仕上げの揚げ物や盛り付けをやりました。大人数の料理が冷めないようにお出しするために、ワゴンや配膳用のエレベーターを使って、どんどん上げていました。ウエディングケーキは、さすがに近くのケーキ屋さんが作りました。それでも小田原の

ケーキ屋さんを作っていましたね。だるまで請け負うときは、料理づくりだけでなく、式場のセッティングなどもあわせて、全部設えました。金屏風を二双立てて、赤い絨毯を敷いた平台などを並べて、あとは人数にあわせて長机を並べます。人数が多いときは、長机は扇方にして、窓側に新郎新婦の席を作りました。

昔のだるま食堂の人気メニューと言えば、天ぷらやオムライスです。元々は、大ホールの地下に食堂があつたんです。本館が完成してから、いまの場所に移ったんですね。名前も「市民会館食堂」が正しいんですが、近くに本店の「だるま料理店」があつて、いつの間にか市民会館の食堂は「だるま食堂」と呼ばれるようになっていました。

忙しいのは一月ですね。賀詞交換会などがたくさんあつて、仕出しの仕事が多い。小ホールを使ってやるときもありますからね。毎日、忙しく仕事をしてきたことが一番の思い出ですが、中でも成人式を小田原市民会館の大ホールでやるときは、新成人たちが綺麗な振袖を来てくるので、楽しみのひとつです。



披露宴のしおり

市民会館発行の「披露宴のしおり」

小田原市民会館  
小田原市民会館  
小田原市民会館



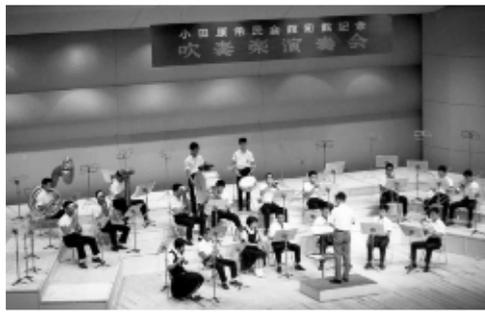
# 市民会館のこけら落とし 文化の殿堂、ここにはじまる



市民会館の開館記念プログラムにびっくり！  
小田原市民会館の開館記念行事は七月二日から八月三日の一週間にわたって開催されました。なんと多彩なプログラムでしょう、市民の期待を一身に受けた意気込みが感じられますね！

さあ、芸術文化創造センターの柿落としは、私たち市民はどのようなオープンを迎えたいのか、どう使っていくか一緒に考えませんか？  
(ライブラリー隊員 神馬純江)

## 開館記念事業の様子 学生たちの吹奏楽部の演奏



▲第二級帳(どんちょう)の前であいさつをする鈴木十郎市長  
第一級帳は「酒匂の渡し」、第二級帳にはニッサン「セドリック」「ダットサン」の文字があります。

### 七月二十九日(日) 記念式典

・「東急ゴールデンコンサート」  
指揮…渡辺暁雄 日本フィル  
ピアノ…安川加寿子  
モーツァルト

交響曲第35番「ハフナー」  
シュトラウス

### 七月三〇日(月) 「皇帝円舞曲」ほか

・TBS名人芸  
柳家小さん、桂文楽、林家正蔵、相模太郎 ほか

### 七月三十一日(火) ジェスチャー公開放送(NHK)

司会…小川宏  
出演…水の江滝子、長門裕之ほか

### 八月一日(水) 小田原新民謡発表大会

三番叟  
新民謡発表  
「あゝ小田原城」 「小田原小唄」  
詞…石本美由起 曲…遠藤実

出演…こまどり姉妹、中尾彬  
司会…千夜一夜

### 八月二日(木) 吹奏楽演奏会

・吹奏楽演奏会  
城山・白鷗・城南・国府津・酒匂  
中、小田原・城東・相洋高校、城南中  
および小田高OB

### 八月三日(金) バレエ「白鳥の湖」

松山バレエ団

## 「桐座」復興と

### 小田原市民会館

昭和四一年六月九日から十日にかけて市民会館で開催された「松竹大歌舞伎公演」は、「桐座名跡復興記念興行」と銘打たれていました。単独の地方興行でこうした名前が付けられるのは、たいへん珍しいことです。桐座とはいったいどんな名跡なのでしょう。

江戸時代、江戸で興行権を持っていたのは江戸三座と呼ばれる中村座・市村座・森田座のみでした。この江戸三座が興行ができないうちに、代理として興行を行う「控座」という制度があります。市村座の控座を務めていたのが「江戸桐座」と呼ばれる座元、この桐座はもう一つ系統があり、それが「小田原桐座」でした。

宗主である大橋家の由緒によると、起源は鎌倉時代に源頼朝の面前で舞を披露したことにあると書かれています。この話は伝説の域を出ませんが、小田原桐座の確証ある歴史は、戦国時代からのこととなります。戦国時代に流行した舞曲に幸若舞というものが、大橋家の祖先である嘉高はこの名手でした。小田原城を本拠地とする北条氏の二代目当主・氏綱に氣に入られた嘉高は、その庇護をうけるようになり、城主が大久保氏に代わっても大切に扱われました。大橋家は城の北東に劇場を構え、小田原内外で興行を行うこととなりました。

大橋家が「桐」を名乗るようになるのは江戸時代からです。大橋家は夫婦ともに舞台上に上がるのですが、「せん」という女性の代に、江戸桐座に修行に行く機会がありました。ここで座元・桐大蔵から手ほどきを受けたせんは、それに大橋家の舞を組み合わせ、女舞「桐家」を立ち上げます。以後、女性は代々「桐」の名と「尾上」の号を名乗ることとなります。

女舞の桐家の誕生がきっかけとなり、大橋家の劇場も桐座と呼ばれるようになります。江戸と小田原の両方に桐座が置かれることとなりました。小田原桐座は、藩主に年始の挨拶をするなど高い格式を持っていました。しかし江戸後期になると、藩は財政難を理由に小田原桐座への支援を中止。さらに追い討ちしたのが、華美風俗を徹底的に取り締める老中・水野忠邦の「天保の改革」でした。小田原桐座も興行を禁じられるなど、影響は多大なものでした。

明治に移ってから、ついに劇場存続の危機に立たされます。様々な人物が立て直しを図りますが、立地のせいで客が入りません。劇場は青物市場と

なり、映画館に変わってしまいました。最後には関東大震災によって倒壊し、桐座は小田原から消滅します。戦後の昭和三十一年、松竹取締役の木村錦花や鈴木十郎市長を中心とする桐家名跡保存会が結成され、その際に、女優の森律子が桐大蔵を襲名。森が高齢だったこともあり、この流れは続かず桐家再興は沙汰やみになつてしまいました。

小田原桐座に関する市内調査は続けられ、市立図書館館長の石井富之助によって桐大蔵の墓と、小田原桐座の由緒書が「発見」。桐大蔵の墓は昭和三九年五月に市の文化財に指定されました。こうした成果によって、小田原桐座の名称は、誇るべき地域文化の遺産として、人々の組上に載ります。時期はあとも市民会館建設へと向かうころ、市議会では、建物の整備と同様に、小田原桐座という文化遺産をそこでどう扱うかが議題とされました。

冒頭の「桐座名跡復興記念興行」と銘打った市民劇場の開演は、こうした小田原桐座をめぐる種々の取り組みの着地点であったと言えるでしょう。その後、「桐座公演」の名称は、毎年夏に開催されていた松竹大歌舞伎の冠として定着し、昭和末期まで使用され続けました。(職員 坂井飛鳥)

なり、映画館に変わってしまいました。最後には関東大震災によって倒壊し、桐座は小田原から消滅します。戦後の昭和三十一年、松竹取締役の木村錦花や鈴木十郎市長を中心とする桐家名跡保存会が結成され、その際に、女優の森律子が桐大蔵を襲名。森が高齢だったこともあり、この流れは続かず桐家再興は沙汰やみになつてしまいました。

小田原桐座に関する市内調査は続けられ、市立図書館館長の石井富之助によって桐大蔵の墓と、小田原桐座の由緒書が「発見」。桐大蔵の墓は昭和三九年五月に市の文化財に指定されました。こうした成果によって、小田原桐座の名称は、誇るべき地域文化の遺産として、人々の組上に載ります。時期はあとも市民会館建設へと向かうころ、市議会では、建物の整備と同様に、小田原桐座という文化遺産をそこでどう扱うかが議題とされました。

冒頭の「桐座名跡復興記念興行」と銘打った市民劇場の開演は、こうした小田原桐座をめぐる種々の取り組みの着地点であったと言えるでしょう。その後、「桐座公演」の名称は、毎年夏に開催されていた松竹大歌舞伎の冠として定着し、昭和末期まで使用され続けました。(職員 坂井飛鳥)

なり、映画館に変わってしまいました。最後には関東大震災によって倒壊し、桐座は小田原から消滅します。戦後の昭和三十一年、松竹取締役の木村錦花や鈴木十郎市長を中心とする桐家名跡保存会が結成され、その際に、女優の森律子が桐大蔵を襲名。森が高齢だったこともあり、この流れは続かず桐家再興は沙汰やみになつてしまいました。

## おだわらライブラリー通信第 号

- 編集・発行 小田原市文化政策課
- 平成26年度文化創造活動担い手育成事業「文化資源発掘ワークショップ」報告書
- 資料提供  
小田原市立図書館地域資料室  
小田原市広報公聴課(広報おだわらアーカイブ)  
五十嵐写真館
- 印刷 平成27年3月27日
- 問合せ  
〒250-8555 小田原市荻窪300番地  
文化政策課 芸術文化創造係内  
電話 0465-33-1706 / FAX 0465-33-1526

<b>桐座名跡復興記念興行</b> 尾上梅幸芸術院賞受賞・尾上菊五郎劇団		市村 山 東 上 川 上 原 津 川 上 東 上 川 上 村 津 川 上 東 上 川 上	
<b>松竹大歌舞伎公演</b>		演目・松本大助記 十段目・御目見得口上 座席・箱席: 1,500円(指定席) 1階席: 1,000円(指定席) 2階席: 800円(指定席) 3階席: 300円(自由席)	
演目・松本大助記 十段目・御目見得口上 ・与話情浮名横斬 源氏店の場 ・京鹿子娘道成寺・権舟座 五条橋		6月9日(水) 10日(金) 11日(土) 12日(日) 開演 小田原市民会館 ただ今宵売中	

**歌舞伎展覧会**  
6/7・8・9・10  
演劇資料の重要庫として本館・小田原市美術館の両館に本展覧会を開催し、名跡復興記念として公開展覧します。